

海老澤信一先生退任記念号の発刊に寄せて

経営学部長 櫻 井 隆

海老澤信一先生は、平成4年に文京女子大学(現在の文京学院大学)経営学部に着任され、2年間専任講師を勤められた後、平成6年4月に助教授になられ、その後平成11年に教授、以来、16年間の長きにわたり、本学経営学部において研究・教育活動に励んでこられました。この度、平成28年3月をもって定年により退職されることになりました。この間、先生はコンピュータあるいはプログラミング教育、さらには情報教育の分野において研究・教育を進められると同時に、本学部における教育の発展・大学行政の進展のために多大な貢献をされました。また、平成22年から現在に至る約6年間学長補佐として、学部だけではなく、大学全体の発展のためにも尽力されました。

海老澤先生は、昭和44年3月に早稲田大学理工学部を卒業後、同年4月にシチズン河口湖精密株式会社に入社され、その後日本ユニバック株式会社を経て、昭和55年文教大学電子計算機センターにシステムエンジニアとして採用されました。そして昭和60年文教大学経営情報専門学校専任教員兼教務部長として研究者への第一歩を開始されました。その後平成4年に本学へ奉職されました。本学入職後も、日本大学商学部や産能短期大学などで非常勤講師をされました。

また、学内においても先生の知見を活かされ、平成17年4月より平成21年3月までの4年間にわたって経営学部長として学部運営の中心を担っていただきました。さらに情報教育研究センター長として、情報化時代における学部の取り組みを指導してられました。経営学部の学生たちの情報リテラシーと情報環境の確立は、先生が教育上の情熱を注がれた結果でもあります。

海老澤先生について、以下の3点から先生のご貢献に感謝を述べさせていただきます。

第1に、先生は平成22年3月から教員人事評価制度準備委員会委員長の任に就かれました。この委員会は新たに教員人事評価制度を作るもので、本制度を纏めることは大変にご苦勞があったものと推察されます。入念な準備をされるとともに各先生方の多様な意見を纏め、一定の合意を得ることは困難な作業でありました。それを2年もの歳月をかけて原案を作り、1年間の準備期間を経て、実施され、これによってその時に作られた教員人事評価制度は、現在まで順調に運営されております。今日まで大きな問題が生じることなく、教員人事評価制度が行われていることは、偏に、先生の指導力の賜物であると思わざるを得ません。

第2に、先生は情報教育の発展に全力に関わられた点にあります。20世紀末の情報化社会の発展を見据え、経営学部における情報教育の必要性と発展性を見抜いていました。多くの有能な非常勤講師を招聘して、共同で経営学部独自の教科書を作成され、情報教育の質の向上と教育内容の統一化を推進されました。コンピュータに関する資格取得制度の確立も大きな貢献を

されました。また、情報教育を支える情報教育研究センターの設立にも早い時期から尽力され、本学の情報教育環境の整備にも力を注がれました。

第3に、小職は3年前より学部長の任に就いておりますが、元学部長が海老澤先生でありました。当然のことながら学部長というのは、いつ時点で、何をどのように行うのか、またある事態に対してどのように対応するのかといった点が重要となりますが、任命当初はその点があまりよく分からなかったことが多々ありました。そのようなときはよく先生にご相談させていただき、その際のアドバイスに従って行ったところ、問題がスムーズに解決したというケースが度々ありました。

このように公私にわたってお世話になりました海老澤先生が本学を去られることは個人的にも非常に寂しい限りであります。しかし、今後も、色々な形で文京学院大学に係わってくださることを期待しております。

海老澤先生の御退任にあたり、文京学院大学および文京学院大学経営学部に対するこれまでのご貢献に感謝するとともに、先生の変わらぬご活躍を記念して、「経営論集」海老澤信一先生退任記念号を編纂し、献呈させていただきます。

海老澤先生、本当に長い間ありがとうございました。

平成27年12月2日